



4. 全体的な成果と今後の課題

スタンプラリーは、水泳4団体で活動する4年目、地方開催の「水泳の日」にも多くの愛好者が参加し、来場が予想される水泳ファン層へ直接アピールする参加型イベントとして定着した。2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、持続可能でより身近な事から積み上げ、地味な活動ではあるが、同時に将来水泳界を担う世代にもアピールしていきたい。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 齋藤 由紀

スポーツ環境委員会は連盟内発足14年となり、基本的活動内容の理念は、小さなことの積み重ねで日常の延長上にあるという連盟の基本スタンスがかなり浸透、また環境標語を題材にしたスタンプラリーは一般参加者に人気の企画として定着した。これらは環境活動の持続可能な輪を、特に若年層を含めた競技者のみならず水泳愛好者にも広げる事を目指すものであるが、同時にアスリート委員会とも共生し、次の発信力のあるプログラムやポスターなども企画・具体化したい。

(公財) 日本サッカー協会

1. 実施概要

公益財団法人日本サッカー協会（JFA）の「理念」、および「国連グローバル・コンパクト」における環境3原則（2009年7月に署名）、そして、環境省「チャレンジ25キャンペーン」（2010年1月に登録）に基づき活動を継続。

2. 平成30年度事業活動

- 主催／後援競技会等におけるゴミ分別や公共交通機関利用の啓発
- JFAグリーンプロジェクトの推進
- 事務所（JFAハウス）における環境への配慮（クールビズの実施等）
- オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携活動を継続

3. 具体的な活動実施内容とその成果

- ① JFA事務局内での代表的な活動
理事会、事務局内会議、都道府県との会議等にてプロジェクター利用や事前電子資料配布によるペーパーレス会議を継続した。また、JFAハウス内の会議室にプロジェクターやパソコン用モニターを常設し、日々のペーパーレスも支援した。
- ② JFAグリーンプロジェクト
引き続き、都道府県協会、サッカークラブ、自治体、学校、幼稚園・保育園を対象に芝生の苗の提供等を実施。
- ③ 電子登録証の導入
昨年報告のとおり、2018年度に完全電子登録証へ移行を完了した。
- ④ 教育・啓発
「倫理規範」「JFAコンプライアンス・ハンドブック」に基づく教育については、ハラスメント等を優先し、環境保全に関する個別研修は実施できなかった。

⑤地域/Jリーグ

ベガルタ仙台	ユアスタで宮城県と「エコチャレンジフェスタ in ユアスタ仙台 2018」を開催し、温暖化防止クイズラリー、うちエコ診断や発電体験などを実施。
FC東京	「ECOパスタプロジェクト in 味スタ」を帝人フロンティア（株）と実施中。味の素スタジアムで回収した使用済みペットボトルをポリエステル繊維に再生し、FC東京関連グッズなどに製品化するリサイクル活動。
ガンバ大阪	地域清掃活動「第17回万博ごみゼロウォーク」にアカデミーのユース・ジュニア選手36名が参加。
ファジアーノ岡山	練習場の政田サッカー場がある政田地区の皆さんと清掃活動「六番川水の公園周辺クリーン作戦」に参加。
レノファ山口FC	やまぐち農林振興公社と共に、「緑の募金」活動を3月に2回行い、地域緑化や学校緑化等の支援に協力。「緑の募金」への協力はJリーグクラブ初。
ギラヴァンツ北九州	北九州市内の曽根干潟のごみ拾いを中心とした清掃活動に、クラブマスコット・ギランおよびクラブスタッフが参加。今から25年前、曾根東小学校の子供が干潟に遊びに行ったときに、釣り糸が足に絡まって動けない野鳥を保護したことがきっかけで始まった歴史ある活動。
ロアッソ熊本	熊本県と連携し、ホームゲーム来場者、サッカー教室参加者より廃食油の回収を行い、軽油の代わりとなる環境に優しい燃料「BDF」へリサイクルできることの周知を実施。
JFA	昨年に続き、高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2018 チャンピオンシップ（埼玉スタジアム）にて、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会との連携により、約7千名に啓発活動を実施。

4. 全体的な成果と今後の課題

- JFA
スポーツ界における暴力・ハラスメント問題等役職員教育等の充実が求められている中、環境保全も含めて今後計画化していく必要がある。背景に環境への適応問題、夏期の暑熱問題により複数競技会にて注意喚起や競技スケジュールの変更、試合時間の短縮判断につながっていることがある。
- Jリーグ
J1からJ3と全国50クラブ以上の活動として、地域巡回、イベント開催に加え、スタジアム周辺等の清掃活動など広く実施されている。

5. JOCスポーツ環境専門部会員 玉利 聡一

2017年に開始した高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ 2018 ファイナル（埼玉スタジアム2020）での来場者啓発活動を2年連続実施し、高校生・中学生・小学生など主に学校教育により高い環境意識のある地元の子供たちが、試合後に自らスタジアム内清掃や帰路の道路に至るまでゴミ拾いをしている姿を見かけました。ワールドカップ等におけるサムライブルーの活動に加え、日常のサッカーライフに環境活動が根付くよう継続して活動いたします。